



いしょくしょう 異食症ってなに?

どんな
病気?

異食症は、異嗜とも呼ばれ、さまざまな原因で食べ物以外のものを口にしてしまうこと。

好奇心旺盛な子犬に多いとされますが、日常的によくある「誤飲・誤食」、散歩中の「拾い食い」、犬が自身や同居犬のウンチを食べる「食フン」もこれに含まれます。



おもな
原因

病気による食欲増進、好奇心や何らかの欲求などが原因に。

1 病気

病気の影響で、体が栄養を欲したり、食欲が増進したりして、どんなものでも口にしてしまいます。

消化器や内分泌(ホルモン)などの病気の影響で、栄養不足になったり、食欲が増したりして起こります。該当する病気の多くは、シニア犬に多いですが、先天的な病気は若い犬に見られるので注意を。

- 消化器疾患
- 糖尿病
- 肝臓疾患
- 内分泌疾患
- 栄養失調
- 認知機能不全症候群
- 膵外分泌不全
- 貧血 など

あわせて気をつけたい症状

- 食欲はあるのにやせてきた／やせている
- 下痢や嘔吐など

2 行動学的なもの

好奇心や関心をひきたいといった欲求を満たすために、異物を口にしてしまいます。

犬が欲求や本能を満たすために起こります。好奇心から食べてしまった、口にしてみたら遊びたい欲求が満たされたなど、さまざまな理由が考えられます。

- 好奇心からつい食べてしまう
- 飼い主さんの関心をひきたくて食べる
- 暇なときに異物を口にしてしまう
- 遊びたい欲求を解消する
- 清潔にしたいと本能的にウンチを食べる など

異物を口にしていない犬を追いかけたり、無理やり取り上げたりを繰り返すと、取られまいとして急いで飲みこもうとする行動が強くなることも。また、飼い主さんの行動を「かまってくれた」と感じ、何度も繰り返すケースもあります。



検査と
治療法

消化器などの病気が原因で起きているのか、そうではないのかを区別することが第1段階です。まずは、問診や身体検査、血液検査、尿検査、超音波検査など、一般的な検査を行います。病気が確定できれば、適した治療を行います。それにより異食症がおさまるケースが多いです。病気が原因でない異食症は、環境や生活習慣を改善して対応することで、右にあるような対策をおこない、異食症を起りにくくしていきます。

予防と
対策

環境を整えて誤食できないようにすることが大事。

室内での予防策

- 犬が届く範囲にある物を片づける
- 家の中でもリードをつけておく
- 知育おもちゃで遊ばせて気を紛らわせる
- 台所に入らせないよう柵などをつける など

散歩での予防策

- 動きを制御しやすいように短いリードを使う
- 拾い食いを防ぐために口輪をつける
- アイコンタクトするたびにおやつを与え、地面より飼い主に注目させる など

それでも異物を口にしてしまった場合は、騒がずにおやつと交換するなど落ち着いて行動しましょう。

いぬに多い病気、そこが知りたい! は「いぬのきもち」で連載中!

●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

アニコム損保ご契約者が
マイページから定期購読を申込みと
2号 (2ヶ月分) **無料!!**